
結婚指輪物語
Tales of Wedding Rings
2
Presented by
めいびい

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


結婚指輪物語
Tales of Wedding Rings
めいびい
2

Tales of Wedding Rings

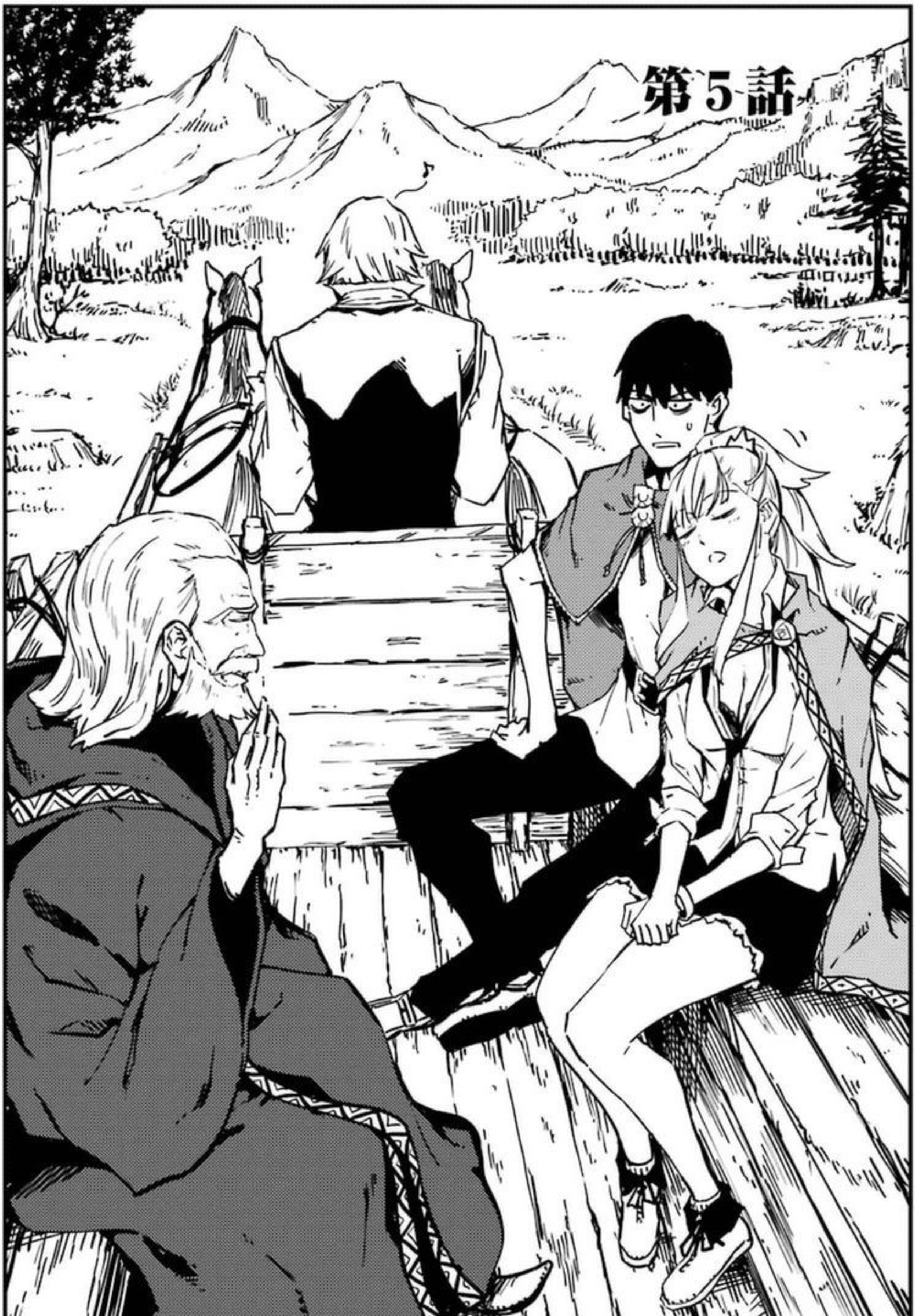
結婚指輪物語

2

Contents


風の指輪を守る国　ロムカ
深い谷の底…美しく聡明なエルフたちの住まう土地
かつてこの地は世界の知識が集まる場所として神聖視されていた
しかし50年前
ロムカは突如として突風の障壁に包まれ他種族の侵入を拒んだ
まことしやかにいくつもの噂が流れたが
その真相は外の者にはわからぬままである…


穢れた外界から……指輪王が来る…
悍ましい…
姫様 お食事です
コンコンッ
ビクッ
もそり…
あ……
シャーッ
おいといてください。
ひめーっ!
ひめさまーっ!?
ララ……
おぞましいっ…


第５話


馬車で何日も…
ずーっと揺られ続けてケツは痛いし
今度は森の荒れた道
…やっと
たどり着いたと思ったら
この…


バババ
バサササ
バサバサ
ギャー——っ!!
……っ
バッ
ゴォォォ
…これが
他種族の進入を拒む突風障壁
オオオ
ゴオオオオオ…
…噂には聞いていたが
この国もずいぶん様変わりしたものじゃ


おじいちゃん ここに 来たことあるの？
わしが来た頃は こんな壁などなかった
昔のこと じゃがの
エルフたちは 出入りしている ようじゃからの
なにがしかの方法は あるんじゃろうが…
!?


これも深淵王(しんえんおう)の魔物なのか!?
なんだ…コイツ?
いや これはただの森の獣
まぁ 熊みたいなもんじゃ
グルル…
グルルル…
なんだ〜く熊ね!つまりただの野生動物か
よ〜しよし…
だったら危険は……
オグオオオオ
オオオオッ
ビクゥッ
アホ!
野生動物に無警戒に近づくヤツがあるか!
森のくまさんは十分危険じゃ!!
確かに…!
ドドドドドドド


ギャーーッ
はっ
しまった…
ゴォォオオオ…
風の壁が!
そこの者たち…早くこちらへ!
!?


ガォー…
なぜこんなところに人間が？
キミたちは何者だい？
エルフ…!?


本当に…
耳が長い！
風の民よ 助けていただいて 感謝する
わしらは…
ッ
俺は… 指輪王です！
お姫様に 会いに来ました！


ちょっと…
サトウ！
指輪の国がみんな協力してくれるとは限らないんだよ？
え…そうなのか!?
指輪王…なるほどね
噂には聞いていたけれど…
……
…わかった
王宮へ案内しよう
ただ…上手くはいかないと思うけど……ね
……？


ロムカへは
この巨木の中を
通っていく
木の根が
空洞になって
いて
風の渦の
内側にまで
伸びているんだ
なんか…
不便ですね
安全のためさ
ここを通れるような
小さい生き物なら
さして害は無いし
強い魔物は
風が退けてくれる
心強いよ


これが風の指輪の国
ロムカ
風の障壁に守られた
我々エルフの住まう地だ



エルフのお姫様…
ど……どんな感じなんだろうね！
ヒメ…
どんな相手だって大丈夫だ
この世界のために指輪をもらう
それ以上のことはないさ！


ガコンッ…
ゴゴゴゴゴゴ…
あれ？誰もいな…
……！
サトウ！玉座のうしろ！
あれが…お姫様？
なんか凄く警戒されてないか!?


おずおず
あ……あなたが
指輪王…さま？
はい！
俺が異界からこの世界を救いに来た
勇者サトウです！
サトウ…
いっ…異界……
…おふたりは夫婦…なのですよね？
ということは…
もうなさったのですか……？
？


その…
せっ
セセセッ…
!?
この娘…
いきなり何を…!?
そっ! それはまだ…
接吻っ… してないのですか!?
えっと… まあ 一応……
ダメだ…
こんなことで動揺しちゃ…
光の指輪はすでに彼の手にあります
深淵王の驚異を退けるため伝承に従い風の指輪を…
わたしたちはちゃんとした夫婦なんだから!
ふ………


ガタガタ
不潔…！
他人とくちびるをあわせるなんてそんなこと……！
ガタガタ
ダッ
うぇええっ…きもちわるい！
ああっ！
逃げ出した!!
まったく…どうしようもない『閉じこもりの姫君』だ
スッ
ご覧の通り我が国の姫はこの有り様だからね
指輪の受け渡しは難しいと思うよ


えっ……と どちらさまで…？
やぁ 久しぶりだね マルス！
指輪王になるのは キミしかいないと 思っていたが…
はっ
あの… お知り合いですか？
……ん？ ああ……！
彼は ジェード・ロムカ
先代 風のロムカの王の 長子で…
先ほど逃げ出した 風の輪の姫君 ネフリティス・ロムカの 兄だ


第6話
……で
キミが噂の…
新たな指輪王か
ザザザッ
ザザッ
ス
!?


連れて来い
え…
ええっ!?
…俺だけ!?
待ってください!
どうして…っ!?
!!
ガッ
ジャッ
ツ
しばらくの間
彼の身柄は
こちらで預かる
ジェード…
どういう
つもりだ…?


もちろん
あなた方は国賓(こくひん)として扱わせてもらうよ
ニコッ
サトウ……


あの〜……
俺なんか悪いことしましたかね…？
妹は………
ネフリティスはね…とてもとても繊細なんだ……
あー…なんていうか臆病っていうか
精神的におさな――
自分の感覚を押し付けるな人間が――!!!
え!?


良いか……
ネフリティスは天使なんだ……!
てんし…?
純粋で…優しくて…
少し気の小さいところもあるが…
兄であるわたしのことが大好きな…ふふ…
とてもとても良い子なんだ…
しかしな…訳あって
国の外はもちろん王宮の外にもほとんど出たことがない
それゆえ外の者には慣れていないんだ
年もまだ54だし結婚するにはまだ早すぎる…
54…? なんか生々しい数字が……
ここはひとつ兄として妹の成長を温かく見守ってやるべきだろう…
お前はただしばらくここで大人しくしていてくれれば良い
…なに ほんの50年ほどだ
ごっ…50年!?
そのくらいあればネフも成長するだろう
えっ……? ちょっと待って…!
そっちは良くてもこっちの結婚適齢期が……!
ギギィ


ジェード様…よろしいのですか？
このようなことをして…ノカナティカとの関係に問題が……
かまわん
深淵王だかなんだか知らんがこの国は風の障壁がある限り安全だ
すなわちその力の源たる風の指輪を守ること…それこそが大事なのだ


ズゥゥウウウウン..。
歓迎されるとは思ってなかったけど……
ここまでは予想外だった…!
右も左もわからない異世界で牢屋にひとり…
冷静に考えるまでもなくこの状況かなりまずいんじゃ…
とはいえ——
ボスン
できることも無し……
きっとヒメのじいさんあたりがなんとかしてくれるだろう…
3日後——
どうしよう…
誰も来ない…!


もういい…わたし行くからね！
待つんじゃクリストル!!
サトウが捕まったままもう3日も経ってるのに
どうして助けに行ってあげないの!?
今はまだ…
“その時”ではない——！
どうしたら良いかわからないだけだよね
頼んないジジィめ…
…とにかく
サトウくんには気の毒だが…
事情がわからぬまま事を荒げるわけにはいくまい
今はガマンじゃぞ


まさか本当にこのまま50年なんてことがあるんだろうか…
50年後とかジジィじゃん……
せっかくヒメと良い感じになったのに…
こんなことなら…
指輪王…
指輪王サトウ
……？
!?



なっ…？
誰だっ!?
お前──
黙れ……
あまり大きな声を出すな
外の者に怪しまれる
……！
扉は開いてない…
どこから入って来た!?
肌が黒い…けどこいつもエルフなのか？
何かするつもりなら俺が寝てる間にできたはず……
危ない人じゃなさそうだけど…


わたしは…この国の行く末を見守るもの
…お前に会いに来たのだ
……!?
お前は風の指輪を求めこの国に来た
5つの指輪を集め何を望む?
世界の平和か
絶対的な力か
…それとも美しい姫君たちか
ギュッ…
なんだか知らないが……
俺が望むのはヒメの幸せ
ヒメとの幸せな結婚生活だ!


ふふっ…
おかしなヤツめ
指輪王の絶大な力をたった一人の女に向けるか
…気に入った
!?
ついてくるがいい新たな指輪王
お前を風の指輪の元へ連れて行ってやろう
ゴゴゴゴゴゴ…
指輪は…
あのお姫様が持ってるんじゃないのか…!?
!!
ついてくればわかるさ


…どうして俺に協力してくれるんだ？
あんたは一体……
言っただろう…わたしは
この国の行く末を見守るもの――
深淵王に抗えるのは指輪王お前だけだ
それを知りながらジェード王子はお前を捕らえた
…すべてはあの風の障壁がため
お前もこの国に入る時に見ただろう
あれは…
エルフを閉じ込める檻だ


そして
ここが…
…風の指輪の在り所
風の神殿だ


あれは…
指輪…!?
そう…あれが力の指輪のひとつ…風のレガリア
ネフリティスに受け継がれる・べ・き・だった・もの
…え?
隠れろ…!
なんだ…あれ…?
毛玉が動いている!?
違うぞ…あれは――




お父様…
お母様…
指輪王が
外の世界から
やってきました…
指輪と…わたしを
奪い去ろうというのです
お母様の……
言いつけを守ります
でもわたしは
決して外へは
行きません
どうかこの先も
この国の平穏を
お守りください



両親の石像に
ああして祈ってるのか…
石像？違うぞ
彼女の前にいるのは先代エルフ王と后そのものだ
えぇっ!?
?
心が死に身体が石と化してなお指輪の魔力を使い続ける…
風の壁を生む哀れな守り神よ
…誰かそこにいるんですか!?


気付かれたか
仕方ない…
ぴーーーよ
ぴよぴよぴよぴよ
!??
なっ…何を!?
いやだってごまかそうと…
こんなところに鳥がおるか!
かえって関心を引いてしまう!
…ほれ!!
かくれんぼですか!?
でででで出てきなさいこの不埒者!!!
あー…えっと
ズッ
俺です指輪王サトウです


サァーー
ゆっゆゆゆゆゆ…
ゆびわお～～～～～!?
ガばっ
…おっと
まったく…
相変わらず…
気の小さい子だ
姫様ー？
…王宮の者に見つかると面倒だな
行くぞ指輪王
行くってどこに!?牢屋に逆戻りか??


大丈夫
ここのことなら なんでも 知っている
エルフの 長老様に お任せだ♡
!?
ネフリティスを連れて来い 指輪王
予定は少々狂ったが…
駆け落ち大作戦開始だ!


ズオオオオオ
モゾ
モゾ
モゾ
姫さま!?
姫さまがお通りです!!

アーヌルス博物誌

知の国ロムカは探求を糧とする知識の民，エルフの隠れ里である．里と呼ぶのが慣例だがその規模は国家と呼ぶにふさわしく，知の道を志す者ならば生涯に一度は訪れることになる土地だ．ロムカは断崖絶壁の谷底にあり，周囲は原始の大森林に囲まれている．そのためロムカへ至る道は険しく，旅人は相応の覚悟をせねばならない．土地がはぐくんだ気質なのか，あるいはその気質故にこの土地に住まうことを選んだのか，エルフたちが種族単位の出不精と呼ばれることに納得がいく環境である．その住居は石と木材でできた堅牢なものであり，彼らの研究生活に静寂をもたらす快適な場所である．建築の驚くべきは，建材のうち木の部分は柱や壁の一部とされながら生き続けているという点だ．成長を続ける家と言えば聞こえは良いが，実際は落ち葉の清掃など不便も多いという．

食を見て国を識る．エルフは菜食主義者だと思われているがこれは繊細な容姿から来る偏見である．彼らは森に暮らし獣を狩る，狩猟民だ．その食材も木の実や獣肉といった素朴なもので，ともすれば野蛮な印象も受ける．だが，料理に対してもエルフの凝り性は遺憾なく発揮され，複雑な工程を経てできあがる料理はどれも素晴らしいものばかりだ．多様な果実と薬草を調合したこの世のものとは思えない味のスープは，飲んだものを幻想の世界へといざなう味だとされる．また，特殊な香木で燻される透明感のある燻製肉は，これまで感じたことの無い極上の多幸感を数時間にわたって与えるという．あまりの素晴らしさゆえに国外への持ち出しは禁じられ，エルフ以外の種族は用法用量を守って喫食する必要がある．




大丈夫
ここのことなら
なんでも知っている
エルフの長老様に
お任せだ♡
ネフリティスを
連れて来い
指輪王
予定は少々
狂ったが…
駆け落ち
大作戦開始だ！
!?
そのお姫様も
そうだが
まずはあのバカ兄貴に
頭を冷やしてもらわんとな
第7話

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


ネフリティスが………
消えただと!?
はい…
確かに風の神殿に入られたのですがそれから姿が見えず……
ネフリティス…
どこに行ってしまったんだ!
誰かネフリティスを見た者はいないのか!


ネフリティス！
はぁ…
はぁっ…
くっ…
ここにもいない…
もはや王宮にはいないということか…？
ジェード…どうしたんだい？
そんなに慌てて…
ネフリティスがいなくなってしまったのだ！この王宮から！
…そんなに慌てることかい？姫とはいえ出かけることくらいは…
ありえない！ネフリティスは王宮の外を酷く恐れている!!


わたしがそう育てたんだ…
愛しい妹がどこにも行ってしまわないようにな…!
え――…
フフフ…
はっ
まさか貴公らがネフリティスを……!
…!?
知りません! サトウを捕まえた上によくもそんな言いがかりを…!
まぁまぁ… ジェード王子も落ち着きなされ
わしらにはずっと
監視をつけておったじゃろう
………
ならば
いったい……
!!
まさかっ――


やはり……
指輪王が…
いない！
間違いない…
あの指輪王が
ネフリティスを
どこかへ連れ
去ったのだ…！
サトウ…
その通りだ
ジェード


あなたは…長老様!!
指輪王は風の輪の君と共にここを出た
ふたりは…駆け落ちをしたのだ!
!?
ふ…はは…あ…ありえない……
あんなにも他人を恐れるネフが……!


妹は！
好いた男と！
駆け落ちした！
もう『お兄様が一番好き♡』とか言ってはくれんのだ！
オアアアアアアア
アァァァァァァァ


さて指輪王…
お膳立てはしてやったぞ
あとは若い者同士でごゆっくり…
はあっ!?



その子のことは生まれた時から知っている
今はこの有り様だが根は強い子だ
多少の無茶なら受け入れるだろう
使命を果たせ
指輪を手にしろ
いやいや
いやいやいや!
俺は指輪をもらうだけ!
それ以上のことは無し!
ん…
気がついた…?


!?
ビクゥッ
ゆっ…ゆびわおおおお～～～!?
何もしないから…大丈夫!
落ち着いて…!
おえええええええ…
ボトボトボト…


ふ…ふふ…
ふふふふふ……
わかっている…わかっているぞ！
長老…あなたの仕業だな
指輪王が消えたのも…ネフリティスを連れ去ったのも…！
少し頭を冷やすんだなジェード
姫の宿命は風の指輪を継ぎ指輪王の力となること
お主の行いはネフリティスのためにはならない
ネフリティスの……
ためだと？


指輪は未だ父と母の手の中にあり
その魔力により国は守られている
それでよいのだ
ネフリティスに指輪を継がせる必要はない
長老…
あなたの館を調べさせていただく



ごめんなさい！
ごめんなさい！
わたしの服まで洗ってもらっちゃって…
いや…そんな気にしないで！
どうせ俺のも洗わなきゃならなかったし…
ああ…異層次元的超存在の指輪王を汚してしまうなんて…
わたしはなんて恐ろしいことを…！
まさか目の前で吐かれるほどとは…


よっぽどなんだな……
俺のことさ…そんなに恐ろしい？
ええっ!?
わたし…ずっと王宮の中で育ってきたから……
外から来るものが…怖いんです
しかも指輪王様は国の外…
この世界のさらに外の異界から来たって聞いて…
………
なかなか厳しそうだな…これは
確かに俺は別の世界から来たけどさ…
そんな特別な存在じゃないよ
この世界の人間とだって…
たぶんそんなに違わないし


…どんなところなんですか？
……え？
指輪王様の世界は
どんなところなんですか？
どんなって…
そうだな……
オークとゴブリンに満たされた海が広がり
ヴォオオオオ…
アアアアア…
道を歩けばドラゴンに襲われるそんな……
いやいやいやいや！
やっぱり恐ろしいところなんでしょうか…


そんな魔物とかはいないし…!
そういう意味では平和なところ…なんじゃないかな
……
エルフは……
エルフはいますか?
んばっ
指輪王様の世界に!
!?
いやっ…たぶん…
そう…
なんですか……
しゅん…
いないんじゃないかな…
近っ…


…もしかして
俺の世界に興味があったりする?
閉じこもりの姫君なんていうからさ
もっと嫌悪感があるのかと…
………
…あ ごめんっ!
お兄さんがそう言ってたんだけど失礼な言葉だったかな…
…大丈夫です
わたしがそう呼ばれているのは…知っています
それに王宮の外の世界に…興味はあるんですけど
怖いのも…やっぱり本当なんです


だから…普段は長老様にいただいた外の世界のご本を読んだりして
どんな景色なんだろう…
どんな匂いがしてどんな感触なんだろう…って
考えるとわくわくして…楽しくってどこにだって行ける気がして…
…ほんとうのわたしは部屋にいて
何もできないのに…おかしいですよね
…………
何もできない…か


なんか偉そうなこと言うのも気が引けるけどさ
俺だってそんなもんだよ
何か特別な力があってここにいるわけじゃない
好きな人と離れたくなくてこっちに来ちゃっただけだからさ
それでも思い切って飛び込んでみれば案外なんとかなるもんだよ
思い切って……


じゃあ
わたし……
いつかーー
指輪王様の世界に
行ってみたいです！
連れて行って
くださいませんか？
ご一緒に！
はっ…
…うん
それは
別にかまわ
ないんだけど…


まえ・・・
ぼっ・・・


ごめんなさい！
ごめんなさい！
わたし…お話に夢中で――！
やっぱり…
疑問なんだけどさ……
それだけ外に興味があるのに
どうして今まで外に出たことがないのかなって――
それは……
ネフリティス！
はっ


ネフリティス
ここにいるのはわかっている
出てきなさい
!
お兄様です…きっとわたしを捜しに…
俺は…
ヒメを追いかけてきて指輪王になった


だから指輪を集める
使命はあるけど
そのために無理に
結婚してくれって
いうつもりはない
俺の扱いは
ネフリティスに
任せるよ
ヒメ……
クリストル姫様の
ことですね
感謝します
…指輪王様
でも…わたしも
頑張ってみます
お兄様もきっと
わかってくれると
思いますから…


ザッ


ヒメと同じくらいあった!!

アーヌルス博物誌

エルフは人間に近い外見を持ちながら，その性質は大きく異なる神秘的な種族である．その特徴をここに記す．

・エルフは長命と美しい容姿を持つことで知られる．その肉体は人間より緩やかな成長ののち壮健な状態を保ち続け，老いることは無い．またその美貌から『エルフはトイレに行かない』『エルフはぬいぐるみを抱いて寝る』『エルフは恋愛禁止』などという認識も広まっているが，これらは誤りである．

・エルフは概ね好奇心旺盛で，心の赴くまま知識を得ることに日々を費やす．興味の対象はそれぞれに異なり，天体，動植物から個人の行動観察，他種族の生殖活動など多岐にわたる．研究のためには手段を選ばず，その様は知的快楽の亡者に例えられ「エルフは享楽的」という印象に繋がっている．

・好奇心に代表される精神の高揚こそがエルフの生命力の源である．エルフの老いは精神にあらわれ，死も精神からもたらされる．無関心や深い絶望にとらわれたエルフは衰弱し「枯れたエルフ」と呼ばれ，やがてその肉体は石や木のように変化し二度とは戻らないという．エルフの墓地はそうと知らぬ者が見れば美しい彫像が建ち並ぶ庭園に見えることだろう．

ロムカの外に暮らすエルフも少数ながら存在する．現地調査を重視する彼らは在野の学者として人間から高い尊敬を集める一方で，その美貌は時に信奉者集団を作り上げてしまう．彼らはエルフに貢ぎ物を捧げ，肖像画を持ち歩き，エルフの記した学術書を我先にと買いあさる．村一つ分ほどの規模に成長した事例もあるが，たいていは研究の邪魔になると感じたエルフが拠点を移すなどして集団は悲嘆に暮れつつ解散する．



信奉者が祭礼時に着用する法衣『ハピー』異世界の影響を受けているとされるが定かでは無い



夜の礼拝で用いられる小型の松明は手指の間に挟み灯される



エルフとの精神的合一をはかるための頭飾りだが当然そのような魔法効果は無い



離れろ…指輪王
第8話


サトウ…



待って ください ……お兄様
指輪王様は
お兄様の 思っているような 方ではありません
…馬鹿な ことを
お前は 騙されて いるんだよ！
指輪は 父と母の 手にあり
それによって この国は 守られているのだ
それはわかって いるだろう
それでもいずれ
受け継がねば ならない時は 来るのです


いつまでも
庇護（ひご）されている
わけにはいかない
わたしは…
ネフリティス――
わたしはお前の意思を
問うているのではない
お前は父と母の思いを
裏切るつもりか？
………
……？


ザッ
ネフリティス!?
…さて指輪王
脱獄だけでなく国の宝たるネフリティスの誘拐
覚悟はできているだろうね?
……



待て ジェード
指輪王を 牢から出し ネフリティスを 連れ出した
すべてわたしが 仕組んだことだ
長老…
ザッ ザッ
貴女が何を考えて おられるのか 私には わかりません
しかし… いくら貴女と いえど 限度がある
言えた身か？ ジェード 指輪王への仕打ち 許されることでは ない


…指輪王の身柄は
わたしがあずかる
かまわんな
…わかりました
ただし二度と
ネフリティスの前に
姿を現すな
…指輪王
いいな


心配したんだから…
どこも…
ケガとかしてないよね？
大丈夫
牢屋で3日はきつかったけどな
…良かったね美人に助けてもらえて
？


お姫様とも
いつの間にか
仲良くなった
みたいだし…
もしかして
…妬いてる？
!!!
…いけ
ないの？
いやっ…！


ご挨拶が遅れました光の輪の君
わたしはロムカの最も古きエルフ
ペリドート
あっ…
えっと！
ノカナティカ王女…
クリストル・ノバティ・ノカナティカと申します
長老さん…


ネフリティスがあああなのは
やっぱり父親と母親が関係しているのか？
指輪王そして光の輪の君
あなた方には知っておいていただきたい
このロムカがなぜ風の壁に包まれているのか
ネフリティスがなぜあのようになってしまったのか…


ネフリティスとジェードの母は指輪の第一継承者ではなかった
姉がいたのだ
指輪を外へ出さぬため指輪を守り継ぐため…
里の者から婿を迎えるのがエルフの姫の習わし
しかし…あろうことか姉姫は旅人に恋をしてしまった
…それも 人間のな
里のエルフたちは恐れた
旅人に指輪の片割れが渡れば里から持ち出されるやもしれぬ
いや そもそもあの旅人は指輪を奪うことが目的で姫に近づいたのだ…
様々な噂が流れた
大勢がささやけば噂は疑念に疑念は確信へと変わる
周りの反対が強くなるほど姉姫の旅人への想いは強くなっていった


だが
旅人は突然
姉姫の前から
姿を消した
指輪を守ろうとする者たちに
追いやられたか
…消されたか
そんな…
指輪のために
そこまで
するのか…？
別に国が
なくなるわけじゃ
ないのに…
力の指輪は
神話の時代より続く
権威の正当なる象徴
ひいては国の
存在理由を示すもの
でもあるからの…
じいさん…
指輪持たぬ
国にとっては
眩しいもの
…なんだ


――だから
当時の里の者たちは安堵したよ
だが…突如として想い人を失った姉姫の目に
彼らの姿がどう映ったか…
絶望と怒りに心沈めた姉姫は
呪いの言葉を残しこの里を去った
ロムカは深淵に飲まれよ
指輪の君は途絶えよ
とな


呪いの言葉は
我々エルフには
重たい
長い寿命を持つがゆえ
いつ来るかわからない
復讐への恐怖は永遠だ
年月が経つほどに
多くの民が
不安に心蝕まれる
それは
残された
王族も同じ…
姉姫にかわって
指輪を受け継いだ
ネフリティスの父母は
姉姫の呪いに怯えた
そして邪悪なものが
ロムカに近づけぬよう
指輪の力を引き出し
風の結界を張った
すべては国と…
子供たちを
守るために
…代償は
大きかったがな
そして
ネフリティスとの
約束を残したのだ
風の壁の外へ
出てはならない
………となる


…これが
この里の
今の有り様の
理由だ
ネフリティスは
命を賭けた両親に
応えなくてはならないと
…そう思い込んで
いる
……
さぁ
今日は
このくらいに
しておこうか
寝室に
案内するよ



わたしと同じだ…
お父さんとお母さんのおかげで今のわたしがあるのに
その思いに押しつぶされそうになる…
ザッ
…それは指輪の呪いのようなものだ
長老さん!
指輪の国の姫は 多かれ少なかれ
このような悲劇に見舞われる
サトウとやら…
お前をネフリティスと引き合わせれば何か動くかもしれん
…そう思ったんだが
上手くはいかないものだな


それはそうと寝室はこれでよかったかな
他にも用意はできるが……
いえいえ…！問題ありません！
そうか…
…ところで実はひとつ
頼みごとがあるのだが――
？
ず
異世界の人間の夫婦の営みとやらを
わたしに見せてはくれないか？
んっ
!?


興味があるのだ
この世界の人間とは何度か交わったことがあるが異界の人間というからには同じように見えて作法の違いなどがあるかもしれんし本当はわたしが直接確かめたいところだが指輪王も嫁のいる身ではあるからここはじっくり傍らから見せていただくのも…
いやいやいやいや!
何 わたしのことは気にすることはない
いつものようにいたせば良い
ちゃんと見るだけだ!!
そういう問題じゃなくって…!!
そのっ…!!
もしかして…
お前たち まだなのか?
ギくっ


そうか…なるほど
そういうことか……
フッ…
まぁ…そのような関係も良いだろう
しかしな覚えておくと良い
夫婦の絆というのは形も大事なものだ
中身ばかり気にしていてはつまらんぞ
ザッ
それではごゆるりと


チラッ
そうだ…
ダメだ
このままじゃ……
ぎゅっ…
!?


ヒメ……？
もじもじ
はっ
ッ〜〜…
じぃ〜……


長老っ!!
ははは
すまんすまん
はぁ…………
サトウ……
やっぱり…したいと思う?
それは………
もちろん


そっか……
かんがえとく
ネフリティス…
お母様はもうあなたとお話をすることができなくなります
どうして？
エルフに寿命はないけれど…
心が止まってしまうと体も止まってしまうの
どうしてお母様の心がとまるの？



……いいですか
決して この国から出ては いけませんよ
約束です
あなたが ――まで
わたしたちは 見守っていますからね
さようなら……愛しい子ら
お母様…


そろそろ
見切りをつけなくてはならんな
?
こうしている間にも深淵王の軍勢は迫っておるやもしれん
ここで足踏みを続けるわけにはいかん
風の指輪を諦めるってことか?
でもそれじゃなんのためにここに来たのか…
それでは…
力ずくで奪いに行くか?
諦めるのではない後回しじゃ
今は少しでも早く一つでも多くの指輪を手に入れなくてはならん


今のサトウくんでは深淵王の騎士にすら敵わんのだからな
それは………そうだけど……
あのお姫様が…気になるの？
まあな…
なんか俺のせいで引っかき回したようなもんだし……
………


やっと指輪王たちが旅立つか
指輪王などいかに長命なエルフでさえ真実を知らぬカビの生えた昔話
今ここにいる者たちこそ…守るべきものだ
ジェード様!
…何事だ
大変です…
風の障壁の内部に…深淵の魔物が侵入しました!
なにい!?


馬鹿な…
風の障壁は健在だ！
抜け道を通られたか!?
いえ それが…


強力な魔物が
結界に穴を開けているとの報せで…
わずかずつ手下の魔物を送り込んでいるようです
結界に…穴だと!?
父母の築いた結界が魔物ごときに…


結界の外には…
さらに多くの魔物が潜んでいるとの報告も…


なにやら…
おかしな気配がするのう
？


アレは…
深淵の魔物!?
なんでこんなところに…!?
風の壁があるんじゃないのか?
サトウくん!まずいぞこれは……!


あの方向は…
王宮!?


〃もちろん〃
したいんだ…
したいんだ……‼

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


第9話
聞こえるか…
聞こえているのだろう…ネフリティスよ
城下の騒ぎは伝わっているな
障壁を魔物が越えたのだ
……お前は
このままでいいのか？


わたしには関わりのないことです
お兄様がなんとかしてくださいます
…できることは何もありません
ここで……じっとしていることがお母様との約束ですから
……
そう思うのなら
そこでそのまま石にでもなるがいい
心を殺したエルフにいずれ生きる道は無い


ス…
やはり狙いは風の指輪か
…！


障壁の穴から侵入できる魔物は少数…
妙だと思っていたが……
混乱に乗じ障壁を完全に消し
外の大軍を導き入れる算段か……
…させんぞ！


!?
くっ…
おああっ!
…………
……っ


…これが！
ノカナティカを襲ったという深淵王の騎士か
だが…退くわけにはいかん！
わたしは…守らねばならんのだ…
！
父母の…
遺したものを…！




間に合ったか………!
指輪王…!
貴様…何をしに戻った…!
言っとくけど… 別にあんたのためじゃない
ここはあの子の居場所なんだろ
……!


この前は手も足も出なかったけど…
やってみせる！
今はパワーも十分だしな！
チラッ
ちゃんと前見て！
ザッ
ここでキミが倒れればこの世界に後はない
くれぐれも無理はしないでくれ指輪王！
ああ…！
追っ払えればそれで上出来だ！


愚かな…
剣は届かず…
魔法もすべては打ち消せまい
敵う見込みもなく挑むとは…
…ぐあっ！


でも相手がどんなに強くて怖くても…
それでもサトウは…守ってくれる
…そんなのサトウはわかってます
………
それは私も同じ……か
妹を守る
そう誓った日からそのためだけに生きてきた
私がネフリティスを
指輪の宿命から守らねばならんのだ…！


はぁ…
はぁっ…
指輪王…
指輪王は…殺す！
……やはりすべて押さえ込むことはできんか…
わかってはいたが……厳しいの


それに…
なんだか…
もう少しイケると思ったんだけどな…
ハッ…
引き返すぞサトウくん!
指輪を守らねば…
ああ…!
ヒュー


ヒメ……？


…なんでもない
気をつけてね
わたしじゃダメなんだ…
わたしじゃ…
ドッ
ヒメ! 離れていてくれ!
ビクッ
……………


タタタタタタタ…!
フワッ
フワッ


ネフリティス…
わたし
クリストル
です
お願い…
サトウと
結婚して


さ…サトウくん
ここは一度…退くぞ…
…無理だろ
アイツの狙いは風の指輪だ
だったらここを離れるわけには…
指輪王!
長老さん!



光の輪の君はネフリティスを呼びに向かった
ヒメが!?
なんでそんな…
すべてはお前のためを思ってのことだろう
…良い妻を持ったな
今しばらく
持ちこたえる!


…ちゃんと話すのは初めてだね
見た目が同じくらいだから…
こんな話し方でいいかな
イヤだったら言ってね
…………
わたしの両親もね…
指輪とわたしを守るために命を落としたの


指輪と
それを継ぐ者を守る
その使命の重さは…
わたしにもわかるよ
わたしも…
両親のことを
思い出すたび
守られるだけで
何もできない
自分の無力さを
感じてた
…わたしの両親は
わたしが指輪を
継がなくて良いように
自らの命を犠牲にして
風の結界を
作ってくださいました
その想いを
守るのが
わたしの責任
なんです…
わたしは…
あなたとは
違います
うん…
あなたは
わたしとは
違う


だからこそ あなたは皆を 守れるの…！
あの時のわたし とは違う…！
深淵王の騎士 っていうのは 凄く強くて… どうなるのか わからない
だけど お兄さんも 長老さんも 皆戦ってる
それは…
そうするのが 指輪を持つ者の 責任だから…
違う！
サトウは あなたの居場所を 守るために 戦っているの！
サトウ様が…


サトウ…あんなだけど優しいから…
きっとギリギリまで戦う
死んじゃうかも……しれない
わたしにはもう何もできないの…
悔しいけどわたしじゃだめなの！
お願いサトウを助けて…！
ガチャ…
！
わたしに…
できるでしょうか…


くっ…
ヒメ…！
ネフリティス………！


ネフリティス…
なぜ来た……
お兄様…
ネフリティスを後でお叱りください
本当に…いいんだよね
なっ…
お父様…お母様……
…はい！
何を……!?
ズズズズズ
ごめんなさい！


ドゴォ
オ…


カラン…
カラン
風の結界が消えてしまった…！
スゥ…
なんということだ…！
パッ


サトウ様！




まずいぞ…
障壁がなくては…
魔物の軍勢が……!


大丈夫です…
サトウ様の……
光の指輪と…
風の指輪があれば……




…!?
なんか生えてる……?

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


んっ……?
第10話
!!
サトウ…!
ん!…
サトウ様!

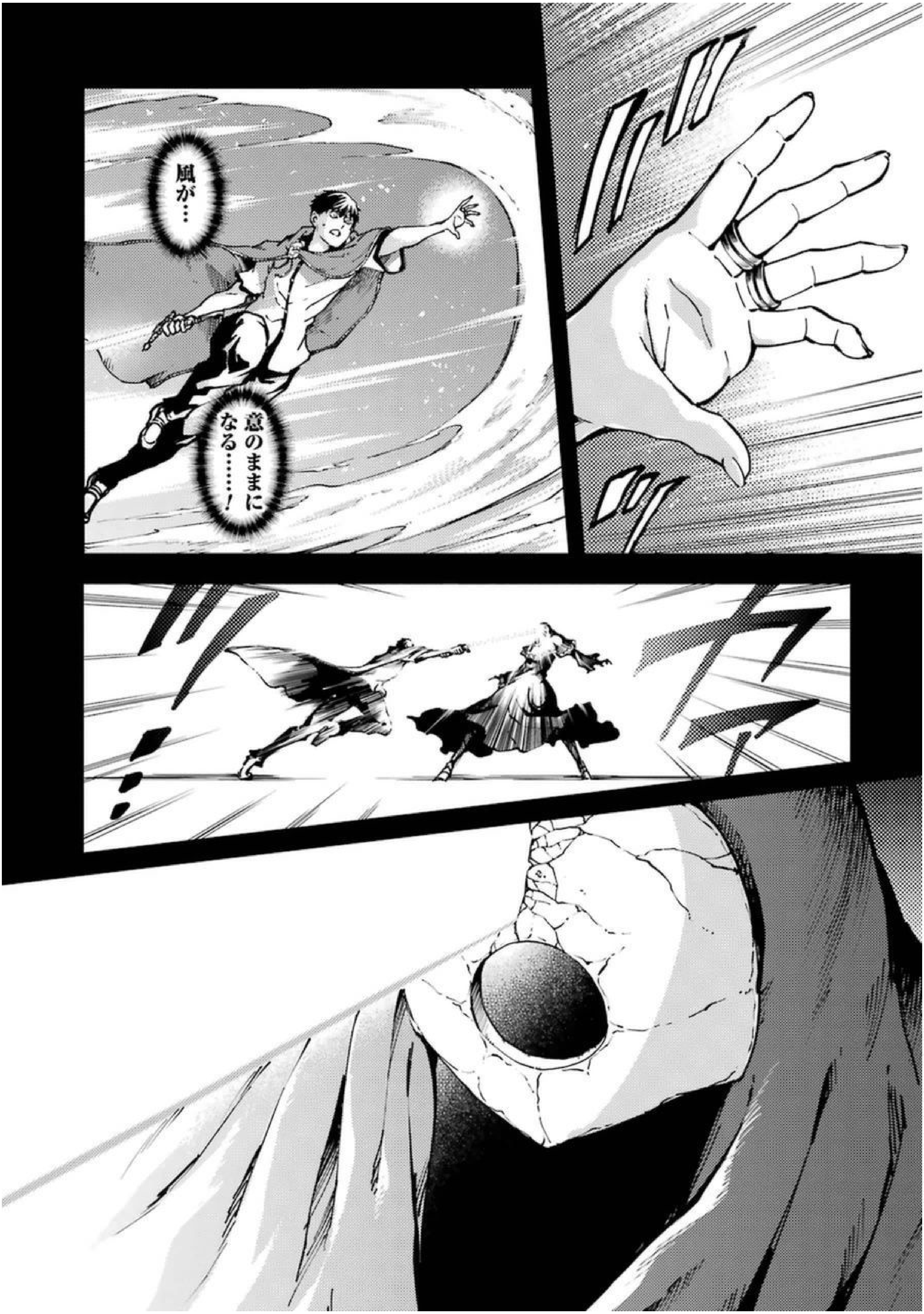

目覚めたか
指輪王
長老さん…!
じいさん!
ふふ…
異界から
来たとはいぇ
光の輪に選ばれた
だけのことはあったな
十分に指輪の力を
引き出していたぞ
…そうだ
ロムカはもう
無事なのか!?



指輪王様
我が国ロムカを深淵王の脅威からよくぞ救ってくださいました
ロムカ王女ネフリティス・ロムカに代わりお礼申し上げます
だ…誰すか⁉ そのお方は…
この方こそ先代ロムカ王妃の姉君スマラグディ様だ
⁉
それって昔… 指輪のせいで恋人を失ってこの国を出て行った…
それがどうして今ここに⁉
覚えておらんのか？
深淵王の騎士 その仮面の下の顔を……


風と光の指輪
ふたつの力は
ロムカを囲んでいた
深淵王の軍勢を
打ち払った――


すげぇ…
今じゃサトウくん!!
…ああ!
!!


風が…
意のままになる……！


深淵王の騎士の正体が…
昔の指輪の姫様だったのか…!?
シュッ
…黒い
風の指輪?
これで操られていたようだ
今は力を失っているがな…
わたしも長く生きてきたつもりだが…こんなものは見たことが無い
ぱしっ


深淵王…
どんなヤツだったんだ？
すみません…
わたくしが知るのは
その指輪と…恐ろしい声だけです
わたくしは…指輪を継がねばならぬ宿命と
それを強いた世界を呪いました
その醜い心につけいられたのです


キイイイイン…
指輪を取れ…
お前を苦しみから救ってやろう
……


深淵王…
そんな得体の知れないヤツなのか
…その姿は今は誰も知らん
伝説の指輪王との戦いの後…肉体を失い
その魂は遥か北の地『ヴァンナー』に封じられた…とだけ……
しかし姿は見えずとも深淵王の眷属は人々を襲っている
そして……深淵王の騎士を産み出す黒い指輪
脅威は確実に存在するのじゃ



よいしょっと…
そうか…
じゃあ早く指輪を集めてさっさと終わらせないとな
……っと!
フラッ…!
ガばっ
サトウ!
…あれっ?
やはり力を使いすぎたようじゃな
なんでいつも…こんなにふらふらするんだ?
その程度で済んでいるのは指輪王なればこそ
あれだけの指輪の力を使えば並の王ならとうに死んでいる
ふたりの姫の絆に守られているのだ…感謝するんだぞ
まぁ今は休め指輪王
タッ!!
タッ…!


バタンッ…
ふたりの姫……
そうか…ついに結婚してしまったんだな…
ヒメ以外の…
お姫様と
でも俺は――
ネフリティス……


サトウ様！
王宮には治癒の力を持つ泉があります
参りましょうきっとすぐに良くなりますよ
いや〜
ノカナティカに続いて
ここロムカにもこんな立派な風呂があるなんて！


確かにすぐ疲れなんか取れそうだわ！
それは良かったです♡
どういうつもりなの？このコ……サトウも断れば良いのに！
いや……！俺がひとりで入ってるところにふたりが入って来たのでは……！
サトウ様の国では夫婦同じ湯に入る風習があると賢者様に伺ったのですが…
わたし何か間違えたでしょうか？
そんなこと！
無いこともないけど……
あのさ〜…？
そういう風習とか形に縛られるのって良くないと思うんだよね
わたしたちのいた世界ではもっと自由な…恋愛？というものがあって…
結婚するのもそういうのが大事で〜……
くど
くど


はい…おふたりはもうそれは深い愛で結ばれていると存じております…
サトウ様がクリストル様を異界から追いかけて来られたのもその深い愛ゆえだと…
ですからわたしは教えていただきたいのです
?
妻としての心構えを…
先に妻となられたクリストル様に!
なっ!?
ふ…ふ～ん…?
そうなんだ……
?
そりゃあもうサトウとはお互いなんでも通じ合う仲だし…?
き…キスだって何回もしてるし!
何回も…!?
もちろん夫婦だから夜の営みだって…
毎晩やりまくりなんだから!!!
ええっ!?
ふーん…
おいっ…ヒメ…!?



ほーう…なるほど
ならば見せてもらおうか!
ふたりの愛の営みを!!
ズパーン!!
長老さん!
愛の…営みを…!?
ネフリティス…
まだ知らぬことだから興味があるだろう?
先に妻となった者として作法を伝えてやるのだ
毎晩のことなのだろう?できぬということはあるまい


…な？
クリストル様…
………ッ
パシャアッ
ええ…もちろん！
ハラリ…
見ててネフリティス
コレがわたしたちの日常なんだから…！
…!!


いやっ…
ヒメ……
チュプ…
これは……!
ふよんっ


…ちゃ……チャンスだよ
サトウ……
今なら…
わたしだって…引けないし……


……っ!
ガバ!
待て…ヒメ!
ザバァアッ
オレはこんな空気に……
流されたりなんかしない!!!


ほー……
……
ーーっ
ほう…？
ぬっ
これでわかっただろう？ネフリティス
お前とクリストルふたりは同じ立ち位置ということだ
先に行くチャンスはあるぞ？
はっ…
そっ…そんなこと……
わたしは……


…いらんのか？
では後腐れのないよう私が先にいただくということでここは…
やめて──っ！
ふふふ…いらぬこだわりなどは一度経験すればなくなるものだ
い…いやぁああ…


ご機嫌は いかがかな
…あなたは？
………
…名乗る ほどの者では
人間の世界では 賢者などと 呼ばれて おりますが
指輪王の手助けが できればと ともに旅をして おります
…今でも恨んで おいでですか この里の者を
…いえ
指輪を守る者も 心に苦しみを持つと… わかってはいたのです
…今はただ… 疲れました…

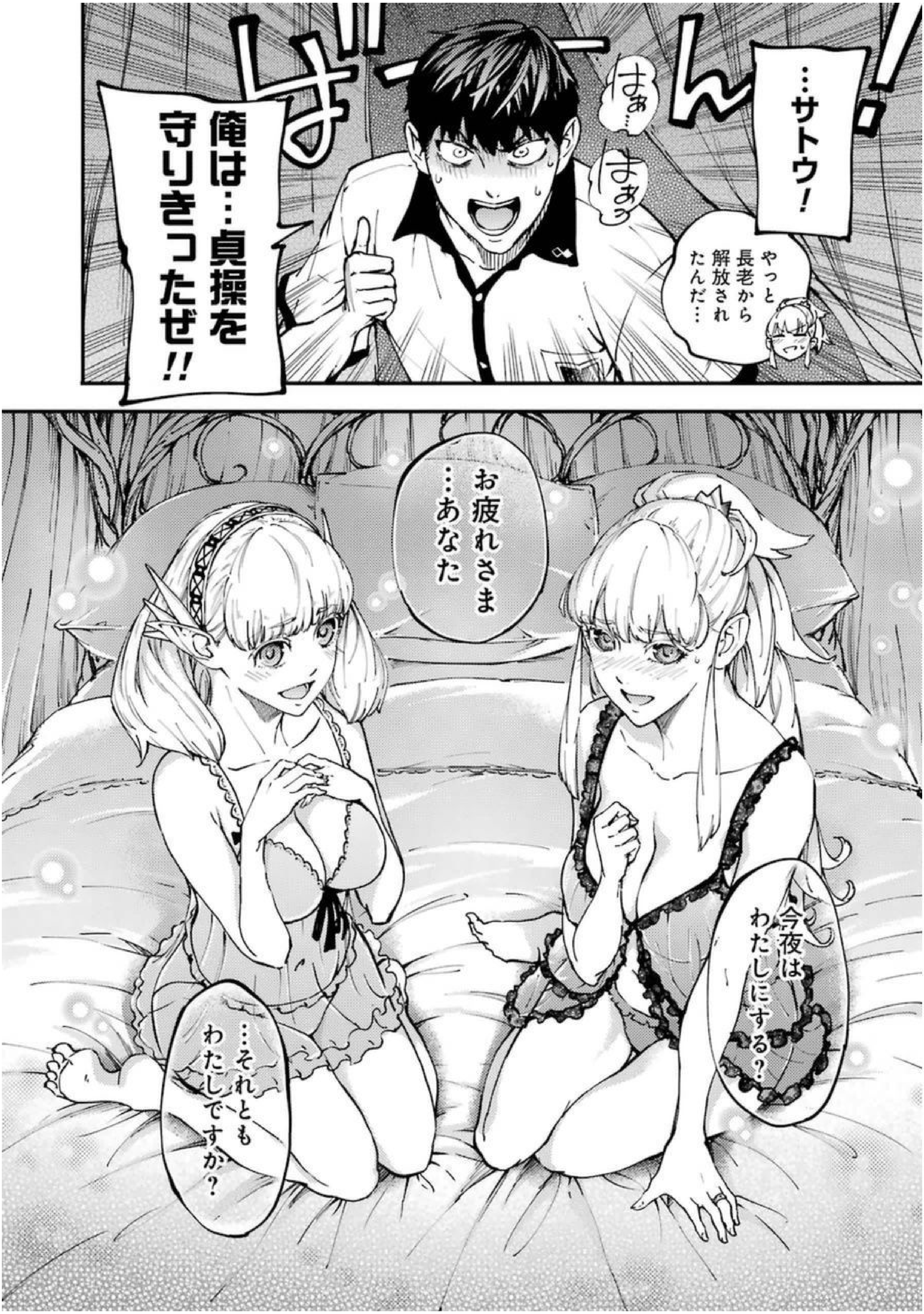

あなたはご存じありませんか… 50年の昔ここを訪れた若い旅人のことを
わたくしが愛したあの人
殺されてしまったのか… 逃げ延びたのか
せめて……知りたい…
…彼のことは古くから知っております
彼の旅の話もよく存じております
それは… わたくしがあの方に贈ったもの…
どうしてあなたが!?
…あの人は
生きているのですか!
彼は…こう言っておりました
愛した女性が自分のために疎まれるのは耐えられなかったのだ…と



今は遠い土地で
静かに暮らして
おります
そう…
ですか
ありがとう
わたくしのために…
いいえ
彼もあなたの幸せを
いつも願っておりました
こうして
お伝えすることが
できてよかった


ねぇ…ネフリティス
もにょ
わたしたち指輪の姫の結婚は
形だけのものだってわかってる?
もにょ
それでも…わたしはサトウにお嫁さんが増えるのは嫌!


わかっています……
おふたりの関係は特別なものですものね
わたしたちは宿命に縛られた指輪の姫
宿命に流されるままでいるしかできないものだと…
でもクリストル様は強くて…まっすぐで
素敵だと思います
わたしはおふたりが上手くいくことを
応援しています
ネフリティス…
ほっ…
ですからわたしはその後で大丈夫です
いやだから！そういうことじゃなくって……！


ばーーん！
…サトウ！
やっと長老から解放されたんだ…
はぁ…はぁ
俺は…貞操を守りきったぜ!!
お疲れさま…あなた
今夜はわたしにする？
…それともわたしですか？


お父様…
お母様…
あなたが…強くなるまで
わたしたちは見守っていますからね
ネフリティスは
…もう 大丈夫です


それに…
したいことも見つけました
行くのか…
お兄様…
…はい


強く
なったな
ネフ…
ポン…


サトウ様！
ネフリティス…！
…いいのか？
はい…
お傍にて
指輪王様の
お力となるのが
指輪の姫の
務めですから
…それに
わたし外の世界を
たくさん
見てみたいんです


そしていつか…
わたしをサトウ様の世界に…！
約束してくださいましたよね？
はっ
サトウ…そんなこと言っちゃったの⁉
じいさん…なんとかならない…？
ほほほ…その時が来たらの


今度の指輪の姫は幸せになれるでしょうか
長老…いえ
最初の指輪の姫のひとりペリドート様
今までわたしが見てきた指輪の姫は皆ろくなことにはならなかった
それは…初代もしかりだ


新たな指輪王は王としては少々奥手すぎるが…
かえってそれが良い方向に働くこともあるかもしれんな
そう…ですね
指輪王様はもう発たれたか
ああもうロムカの領外だろう
そうか…大賢者アラバスタ一度会ってみたかったが……
アラバスタ…!?
…はい
あの老いた人間がそうですが…


どうした？
じいさん
…いいや
なんでも
ほれ 急がんと
初日から
野宿じゃぞ！


ササッ
ワシらめっちゃ警戒されとる・・・?

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


…まぁさ
あんなヤツらの言うことなんか気にすんなよ
でもっ…！
目立つのなんか…
仕方ないし…！
番外編
わたしだって…
気にしてるのに…


じゃーーん!!
悪いな全部作ってもらっちゃって
今日はおじいちゃんが出かけて家にいないから
ついでだよついでで
サトウの部屋
じいさんひとりで？どこに行ったんだ？
さぁ？遠いところだって言ってたけど……たぶん
たぶん…？
ぽいっ
とんっ


サトウは幸せ者だよね〜
こんな可愛い幼なじみにご飯作ってもらっちゃってさ〜
いや…ホント その通りだと思うよ
じー…
もぐもぐ
?
おかずにされてるっ!?
……うん! ご飯がすすむな
19:45
サトウはなんでも美味しそうに食べるね
ヒメの料理が上手いんだよ
またまたー
そういや…ヒメってさ——


高校になってから変わったな
昔は……っていうか
中学の時はもっと
おとなしい感じだったのに
目立たないようにしようって思うと
かえって目立っちゃうからね
髪とか…こんなだし
確かに…
あの時はかえって
悪い意味で浮いてる感じだったな…


わたしはお姫さまだからね！
強くなきゃいけないの
ふぅん……
ごちそうさま
じゃあ片付けるね
いやそれは俺が――
いいって――
ズルッ
…きゃっ！
ドサッ…
ッたた…


!!
よん…
ふ
ちょっ…
手……！
ヒメ……っ！


俺はどっちも…
今も…昔だって
ヒメらしくて良いと思う！
………
そっか……
もみもみ
……で
いつまで触ってんのかな……？
…ん？
せっかくだからな…もうちょっと感触を……
調子にのんな!!!


…ふんっ！
ヤバい…
ぷる
ぷる
ぷる
ぷる
ぷる
ぷる
飯食った直後に
それはヤバい…
するんだったら
わたしが
帰ってからに
してね
うん……
そうする
……
ばか！
バタン


まったく……
正直者なんだからサトウは……
ドキ ドキ
ドキ ドキ
ヴヴヴヴヴヴ…
おじいちゃん…？
！



20:20
編集
おじいちゃん
メッセージ
連絡先に追加
メール
新たな指輪王の候補は、ギサラスのマルス王子に決まった。姫としてアーヌルスに帰らなくてはならない日は近い。サトウくんにはきちんと伝えておくのだぞ。
サトウ……
結婚指輪物語2 おわり

あとがきページ

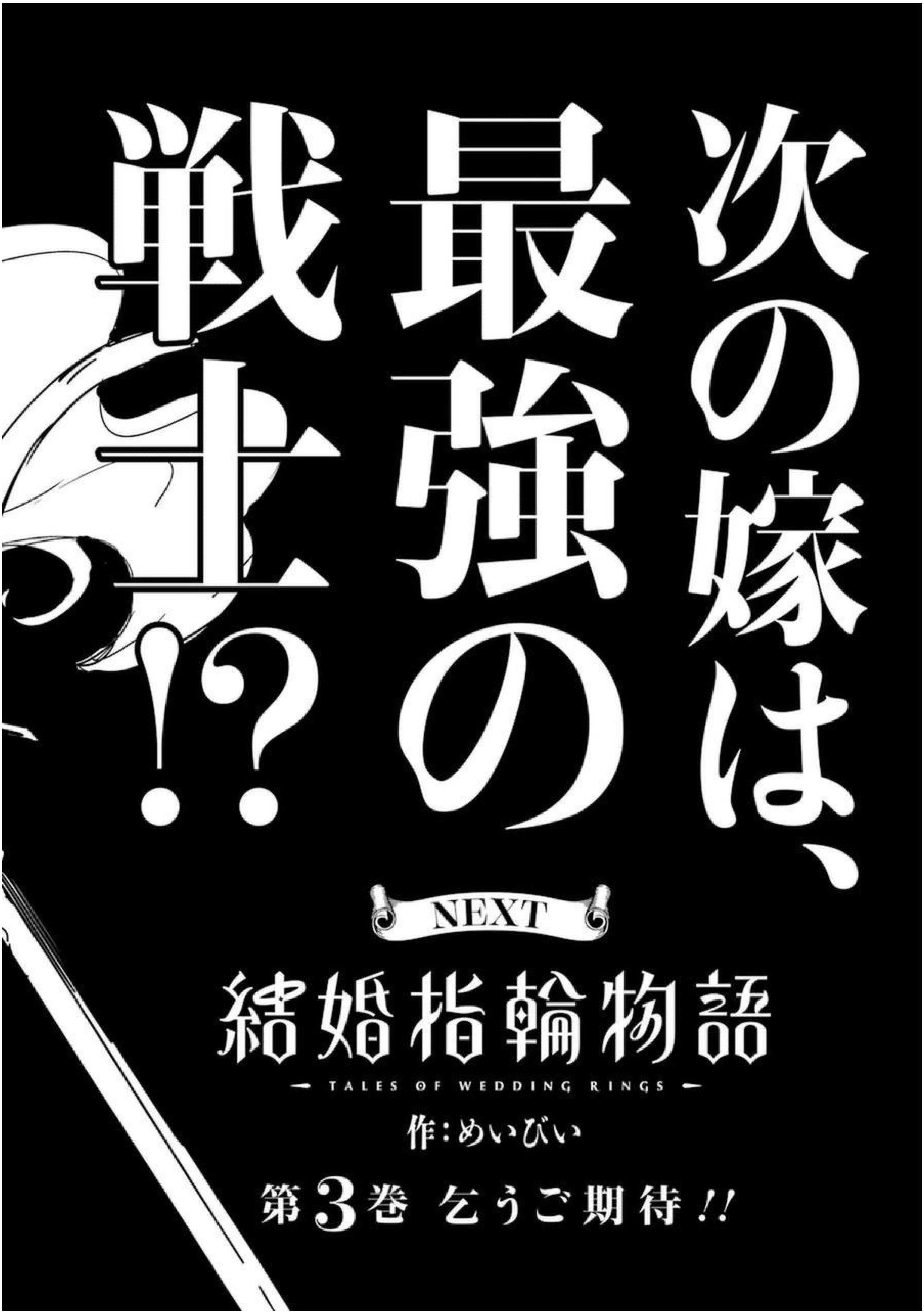
結婚指輪物語②巻

実は一番最初の案では、ここまでの話を1巻に入れるつもりでした。
できるわけなかった!! しかし、新しいヒロインであるネフリティスが
増えたことで、ラブコメとしてはここからが本格的なスタートになります。

この巻は『風のロムカ編』ということで、
これから1巻ずつ指輪の姫を増やして
いきたい!と思っています。つまり
ヒロイン全員揃うまで5巻。
そこまで無事に続けることが
できるんでしょうか!?
お楽しみに!!



めいびい


次の嫁は、最強の戦士!?
NEXT
結婚指輪物語
TALES OF WEDDING RINGS
作：めいびい
第3巻 乞うご期待!!



デジタル版 Ver.1.00

ビッグガンガンコミックス
結婚指輪物語
2

2015年5月25日 Ver.1.00発行

著者/めいびい

装幀/阿閉高尚(草野剛デザイン事務所)

初出/月刊ビッグガンガン 2014年Vol.09、Vol.11～2015年Vol.04掲載

発行所
株式会社スクウェア・エニックス

担当編集
小泉浩志

Extra Contents

カバー折り返し



めいびい

MAYBE

近所にコンビニできた!

めっちゃ嬉しい!!

※コミックス発売時のカバー折り返しを収録

Extra Contents

カバー折り返し



めいびい
MAYBE

近所にコンビニできた!
めっちゃ嬉しい!!

※コミックス発売時のカバー折り返しを収録

Extra Contents

表紙 表



※コミックス発売時の表紙 表を収録

Extra Contents

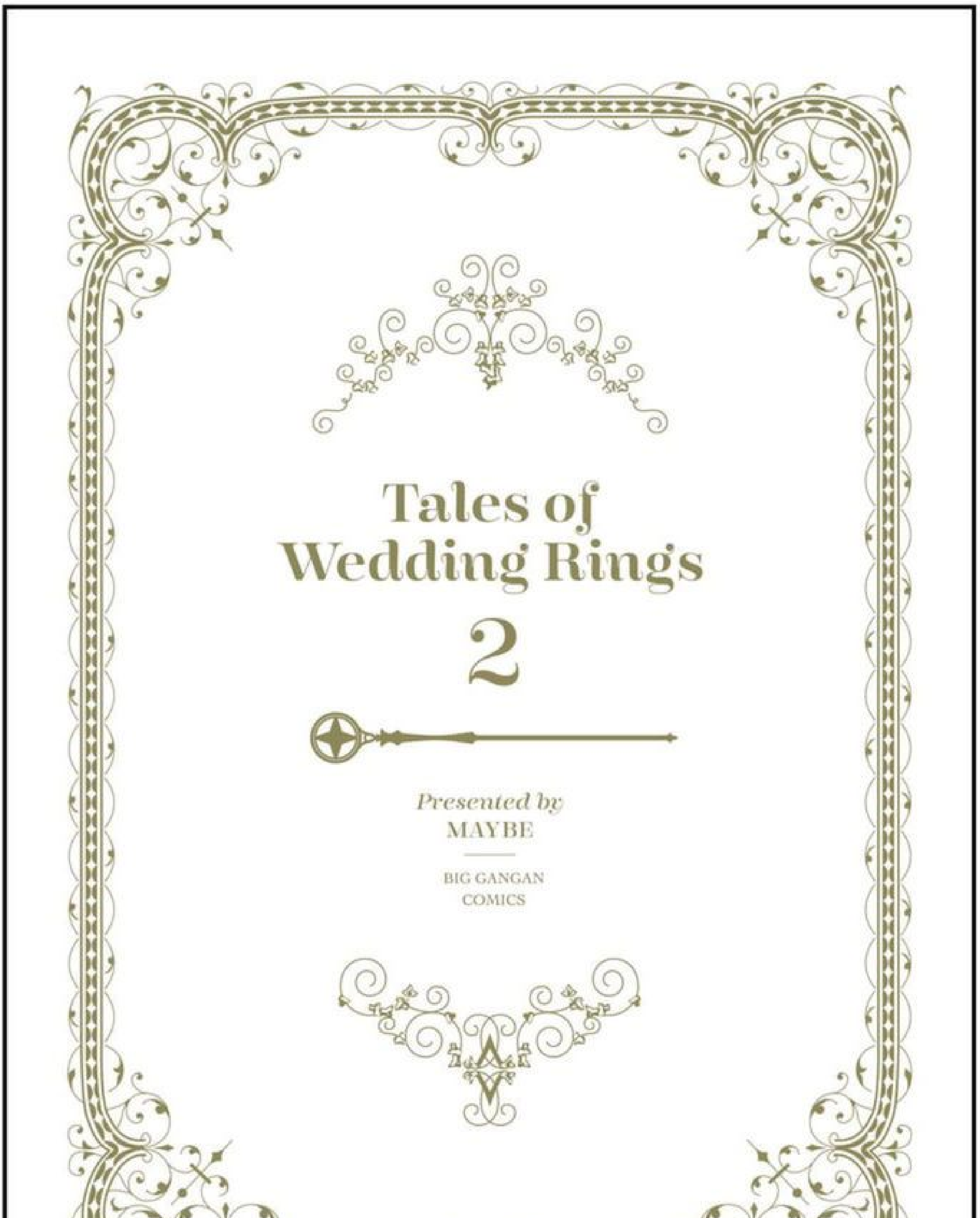
表紙 表



※コミックス発売時の表紙 表を収録

Extra Contents

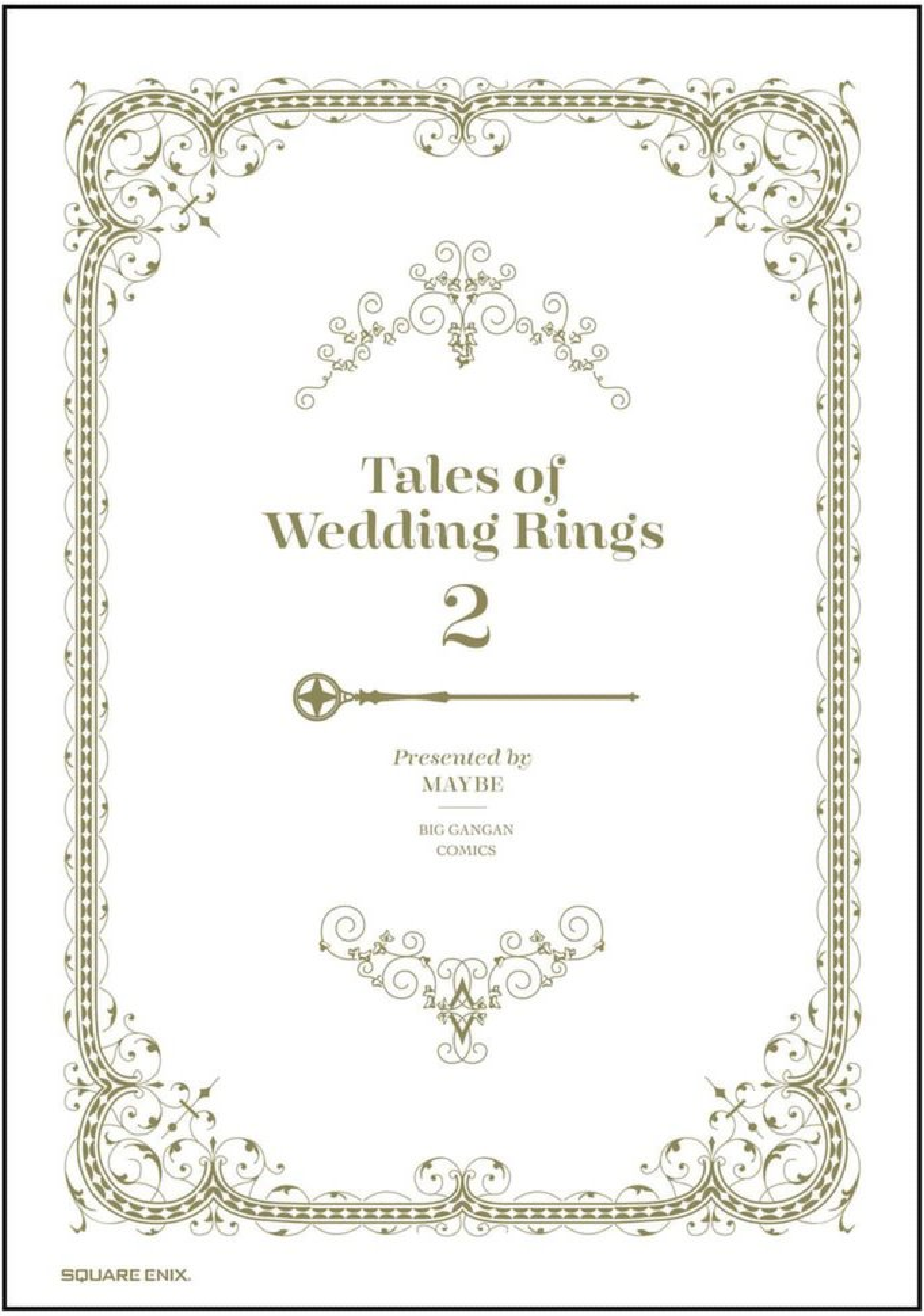
表紙 裏



※コミックス発売時の表紙 裏を収録

Extra Contents

表紙 裏



※コミックス発売時の表紙 裏を収録

カバー裏



Tales of Wedding Rings

結婚指輪物語

異世界で幼なじみのヒメと結婚し、指輪王となったサトウ。

しかし世界を救うには、あと4人の姫と結婚しなければならない。

二人目の妻候補であるエルフの姫様は、可愛いけど難アリで…。

「黄昏乙女×アムネジア」のめいびいが贈る異世界新婚ラブコメ第2巻!!

2

Presented by

MAYBE

※コミックス発売時のカバー 裏を収録

カバー裏



Tales of Wedding Rings

結婚指輪物語

異世界で幼なじみのヒメと結婚し、指輪王となったサトウ。
しかし世界を救うには、あと4人の姫と結婚しなければならない。
二人目の妻候補であるエルフの姫様は、可愛いけど難アリで…。
「黄昏乙女×アムネジア」のめいびいが贈る異世界新婚ラブコメ第2巻!!

2

Presented by
MAYBE

※コミックス発売時のカバー 裏を収録

Digital Distributor
eBOOK Initiative Japan Co.,Ltd.
http://www.ebookjapan.jp